

くまさんだより

日本基督教団 豊橋東田教会
〒440-0055 愛知県豊橋市前畑町 112 ☎0532-54-3435
公式サイト <https://azumada.org/> 武井恵一牧師 080-3428-3200

2020年

11月号

11月15日発行

イラストは全て池谷陽子さんご提供

11月1日 聖霊降臨節第八主日永眠者記念礼拝

「キリストと共に生きる」武井 恵一牧師

ローマ信徒への手紙6章4～11節 新約聖書281頁



ローマ信徒への手紙6章4～11節

⁴わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。⁵もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるとすれば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。⁶わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。⁷死んだ者は、罪から解放されています。⁸わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。⁹そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。¹⁰キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。¹¹このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。

今日は、永眠者記念礼拝です。三位一体の神様を信じ、福音を宣教して、この世から神の国に移られた十二使徒を始め、既に天国に迎えられ眠られているキリスト者を記念し、感謝し、主の恵みに生かされていることを喜ぶ年一度の礼拝です。「記念礼拝」としているのは、私たちの前に、礼拝をささげ、教会を維持された

方々を思い起し、力を与えられるためです。この日を大切にし、主に祈る時、先に主の御許に行かれた多くの永眠された方々が、後に続くわたしたち信徒のために祈って下さると信じるからです。

この聖書の箇所6章4節から11節までの言葉は、使徒パウロが彼の後に続くこと確信しているキリスト者たちに、心を傾けて祈り、書き記した遺言ともいえる言葉です。心から集中し、罪と死と永遠の命に焦点を絞ってわたしたちに、福音の真理を明らかにしています。パウロ自身が実際に心から信じ、今、わたしたちに直言されている真理です。どうか、皆様それぞれにそう意識して、この言葉を受け止めて下さい。パウロの真実がわたしたちを直撃しています。



ローマ信徒への手紙6章4節

⁴わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。

パウロは思いもよらない言葉を、わたしたち洗礼をうけた者全員にぶつけました。パウロの言葉は、わたしたちが「洗礼によってキリストと共に葬られた」と、ここに明記しています。でも、次の言葉がもっと決定的です。今、このわたしたち自身が「新しい命に生きるためなのです」と、断言しました。

わたしたちは、洗礼によって、神の霊によって洗われています。そして、自己中心の自分を葬り、キリストの死に与る者となりました。それは、新しい命・永遠の命に生きるためなのです。

今日は、永眠された方々を覚え、記念するだけの礼拝ではなく、主イエス・キリストが言い、実行された「新しい命」に生かされるため、神さまに招かれている礼拝です。わたしたちには、新しい命が足りません。今日はその新しい命の力を求め、与えられる礼拝です。

ローマ信徒への手紙6章5節

⁵もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。

ここで、パウロは「あやかる」というちょっと古い言葉を用いました。これは、角川国語辞典では「幸運な人に似て幸福になることを願う」と記されています。「あやかる」は、ただ、似るのではありません。真似をするのでもありません。キリストの死に「あやかる」とは、目標とするキリストに力づけられ、キリストのように成長する意味です。あやかかって成長しなければ「あやかる」とは言えないからです。

わたしたちは、信仰によって、イエス・キリストと一体となって、キリストの死の姿に心を合わせるならば、キリストの復活の姿と同じようになり、永遠の命に生きる者となります。これが、本当に「あやかる」在り方、その人のように生きる、生かされることです。

キリストを知らない方に、洗礼によって、罪ある自分が、キリストと共に死に、新しい命、キリストの永遠の命に生きる者となる、という言葉伝えてみましょう。パウロというキリスト者の真理の言葉はその方の心を揺さぶり、救い主イエス・キリストを伝えます。

ローマ信徒への手紙6章6～7節

⁶わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。⁷死んだ者は、罪から解放されています。

洗礼を受ける前の自分は、罪に支配されていました。が、キリストが十字架に架けられたことにより、その罪が、滅ぼされました。もはや、罪がわたしたちを支配することはありません。

キリストを信じて死んだ者は、罪から解放されているのです。洗礼により、キリストと共に死に、罪ある自分は死にました。これは、事実です。けれども、わたしたちは、自己中心的な存在ですから、日々罪に囚われています。しかし、わ



たしたちには、祈ることが許されています。祈るのです。祈りは、罪に支配されているわたしたちを打ち破ります。イエス・キリストの十字架の死と復活を信じ、祈りましょう。祈る時、わたしたちは、生きていた内から、罪から解放され、神様の愛を信じ、神様により頼んで生きることができるようになるのです。感謝して祈りましょう。

ローマ信徒への手紙6章8～9節

⁸わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。⁹そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。

わたしたち、洗礼によってキリストと共に死んだ者なのですから、当然、キリストと共に生きる者となると信じます。洗礼を受けたわたしたちは、キリストと共に生きているのです。キリストが、わたしたちのために死んでくださったのですから、復活されたキリストと共に生かされているのです。

キリストは、死から解放されています。死に打ち勝ちました。

ローマ信徒への手紙6章10節

¹⁰キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。

そして、死んだ者の中から復活されたキリストは、もはや、死ぬことがないということは確かです。

キリストは、人間の罪を負って死にました。そして、「神に対して生きておられる」とは、神が永遠であるように、キリストも永遠を生きています。

ローマ信徒への手紙6章11節

¹¹このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。

イエス・キリストを信じ洗礼を受けることによって、罪あるわたしたちが、死にました。今や、

イエス・キリストとつながりを持って、イエス・キリストを信じて、イエス・キリストと共に生きています。神を信じ、永遠の命を与えられ、神と共に生きています。

罪から解放され、神様のものとされ、神様に仕えるものとなりました。神様は、わたしたちの主イエス・キリストによる永遠の命を与えてくださいました。永眠された方々は、いま、永遠の命を与えられています。そして、わたしたちも、主イエス・キリストにあって、永遠の命を与えられています。共に主イエス・キリストにあって、神様の愛の内に生かされている恵みを感じます。

今日は、11月1日「聖徒の日」であり、「永眠者記念日」です。今年、主イエス・キリストの愛の心により、天に召される方はおられませんでしたが、けれども、わたしたちは、いつか、天に召されます。主がわたしたちを慈くしみ、愛され、この世を終わる時は、必ず、天に用意された「神の国の楽園」に招いて下さると信じます。

わたしたちは、困難と怖れの中で主イエスを信じて集まっています。今や、わたしたちは、罪と死から解放され、キリストと共に新しい命・永遠の命に生きる者とされていることを感謝します。

祈り 讃美歌(21) 297番「栄えの主イエスの」

聖書の言葉はすべて以下から引用しています。
 聖書 新共同訳：
 (c) 共同訳聖書実行委員会
 Executive Committee of The Common Bible Translation
 (c) 日本聖書協会
 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

